

花やぎと静心——序文に代えて 3

第一章

光の底へ吸い寄せられる 16

「世上になき物也」

曜変天目 18

「仁清以前」にはなかった黒

色絵吉野山凶茶壺 30

『古今和歌集』最古の写本

高野切古今和歌集(第一種) 38

大量生産ではない注文品

御本立鶴茶碗 50

松花堂昭乗が頻繁に茶会で用いた

花白河時絵硯箱 62

瓊とは美しい「玉」

川瀬忍作 瓊瓷茶碗 74

ガラスに込められた「憧憬」

藍色ちろり 86

光悦ならではの志向性が窺える

本阿弥光悦作 白樂茶碗 銘冠雪 98

第二章

手になじむ／触感を愉しむ 112

赤と白が混ざり合って「鼠」になる

鼠志野茶碗 銘峯紅葉 114

シャープさとやわらかみを同時に感じさせる器

玳瑁鸞天目 126

その景色に、茶人があこがれた

小井戸茶碗 銘六地藏 138

第三章

「軽み」「重み」が身体に刻まれる

152

「清貧」の象徴

千利休作 瓢花入 銘顔回 154

あえて「天目」の名を付けなかった

石黒宗麿作 黒釉葉文盃 166

キネナリⅡ「杵形」、遠州の命銘

古銅象耳花入 銘キネナリ 178

第四章

伝来・歴史に感じ入る 192

罹災した大名物

唐物茄子茶入 付藻茄子 松本茄子 194

価値感の大転換によりその美が見出された

唐物尻膨茶入 銘利休尻ふくら 206

二つとない色を持つ天下の大名物

漢作肩衝茶入 銘新田 218

「メイドインジャパン」の新名物

瀬戸小川手茶入 銘ふる郷 230

端正さと愛嬌を併せ持つ

唐物茶壺 銘弾正 242

「真形」と文様の芦屋、多様な形状と荒肌の天明

芦屋遠山五匹馬図真形釜／天明筋釜 254

茶人による見立ての逸品

南蛮毛織抱桶水指 266

皇帝が娘に贈った絵画

夕陽山水図 278

古筆家歴代の極めが添う名筆

伝紀貫之筆 寸松庵色紙 290

「究極の薄さ」を追求した一碗

青磁輪花茶碗 銘馬蝗絆 302

美術館案内 314

初出一覧 319

- 本書対談記事は主に取材当時の情報を掲載しています。
- 対談者略歴は2022年6月現在の情報を反映しています。
- 本企画は、日本文学研究者である著者の研究活動の一環として、特別な許可のもと取材撮影、観覧の機会を得ています。作品に直に触れ、新規撮影する機会が設けられることは一般的でないことをご了承ください。